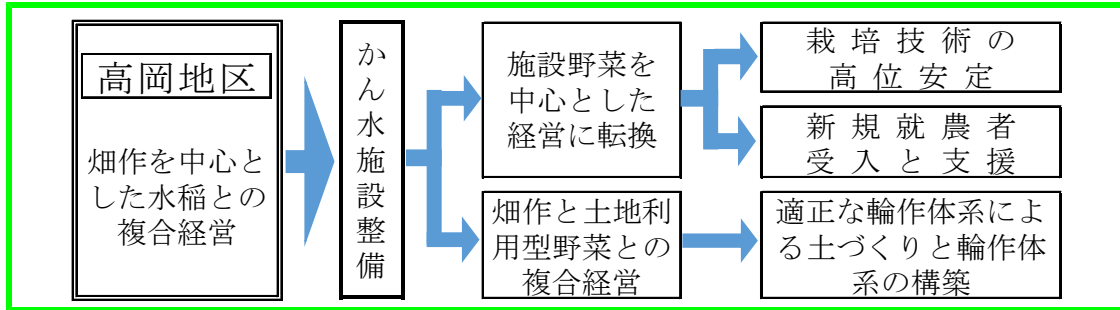


次世代に引き継ごう「活き活き高岡」

～石狩市～

1 課題設定の背景



2 活動の内容

(1) 年次別の活動経過

推進事項	H28	H29	H30	R元	R2
高品質安定多収生産による経営の安定	○	○	○	○	○
地域資産（畑かん施設）フル活用による生産維持	○				
持続的経営を目指した土づくり		○	○		
持続的経営を目指した作付体系の確立				○	○

(2) 主な推進事項の活動内容

ア 高品質安定多収生産による経営の安定（ミニトマト）

実施項目	農業者への技術支援内容
チェックリスト活用	<ul style="list-style-type: none"> 土壌診断による施肥設計：2～3年毎に土壌診断を実施し、施肥設計 排水改善：排水対策の施工を提案 遮光の検討：高温期の遮光実施による労働者負担の軽減と品質向上 チェックリストの改訂：必要な作業を中心に改訂
栽培マニュアルの改訂	地域の栽培技術を中心に改訂を行った
新規参加者への栽培支援	関係機関と栽培状況等を共有し、生産性向上のため個別指導を実施

イ 持続的経営を目指した土づくりと作付体系の確立（土地利用型作物）

実施項目	農業者への技術支援内容
地域内輪作を考慮した緑肥作付け	ブロッコリーの作付間隔が短く土壌病害が懸念されたため、4年輪作（緑肥含む）を推進
土壌改良資材の適正施用	土壌診断の実施による適正な改良資材施用を推進



写真1 現地研修会



写真2 サブソイラ施工



写真3 ブロッコリー講習会

3 活動の成果

(1) 高品質安定多収生産による経営の安定（ミニトマト）

表1 チェックリスト点検項目実施状況と前年収量比（平成29年：ミニトマト10戸）

項目・氏名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
適期定植（は種後65日）	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○
定植時地温確保（18度）	○	△	○	○	○	△	△	○	△	○
少量多回数かん水の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
遮光資材の活用	×	△	×	△	△	×	△	○	△	×
主枝切り換え・摘房	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
適期作業（整枝・誘因等）	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△
開花花房下適正茎径	△	×	△	○	○	△	○	○	○	○
病害発生の程度	○	△	○	×	△	△	○	△	○	×
前年10a当収量比（%）	99	96	115	86	136	91	152	84	109	—

注1 ○実施・△一部実施・×未実施

注2 JはH29年就農

チェックリストの理解により、「問題と課題がわかるようになった。」との声が、各農業者から聞かれた。

(2) 持続的経営を目指した土づくりと作付体系の確立（土地利用型作物）

表2 作付状況（令和元年：ブロッコリー・ばれいしょ栽培8戸）

作付面積／農業	K	L	M	N	O	P	Q	R
ブロッコリー面積（ha）	9.7	7	8	2	6	-	-	-
ばれいしょ面積（ha）	11.9	6.5	1.5	1.5	4	4.5	3.5	0.4
小麦面積（ha）	12.6	7	5	12.4	6.8	7	4.5	3
にんじん面積（ha）	6.3	2.6	-	-	1.3	1.5	1	-
緑肥作物面積（ha）	-	-	(2)	-	-	0.73	0.8	-
その他作物面積（ha）	1.9	0.22	-	-	0.2	2.9	0.4	2.47
畑地合計面積（ha）	42.4	23.32	14.5	15.9	18.3	16.63	10.2	5.87
作付け間隔（年）	4	4	2	4	3	3	2	2

農業者からは、「輪作により、ブロッコリーの根こぶ病による被害は無い」「ばれいしょの病害虫（シストセンチュウ含む）を防ぐため、今後も輪作を継続する」という声が聞かれた。



図1 ミニトマトの面積と10a収量の推移



図2 ブロッコリーの年次別出荷量と10a収量の対比（重点地区と部会全体平均対比）

ミニトマトやブロッコリーの作付けや生産が年々順調に拡大し、地域経済が活性化した。

4 今後の対応

現在石狩市では4名の新規就農を希望する研修生がおり、内女性2名が令和3年に就農する。今後は地域課題として新規参入者・研修生に対する課題で地域農業を支援する。

新たな力で地域の発展を！



写真4 新規参入者・研修生への座学（R2）